第５回総合球技場検討委員会　会議録

○　日　時　　平成２８年１１月２４日（木）　午後３時３０分～４時５０分

○　場　所　　山梨県庁防災新館２０１会議室

○　出席者
・　委　員（５０音順）
　　有賀委員、海野委員、河村委員、小林委員、小宮山委員、佐々木委員、
　　田中委員
・　県　側
　　吉原総合政策部長、小島総合政策部次長、依田リニア推進課長、砂田エネルギー局主幹、望月都市計画課長、小泉スポーツ健康課総括課長補佐
　　（事務局：政策企画課）末木政策企画課長、石寺総括課長補佐

○　会議次第
１．開会
２．議事
（１）　整備候補地の比較
（２）　その他
３．閉会

○　内　容
１．開会
　　司会：石寺総括課長補佐

２．総合政策部長あいさつ
　本日は公私共に大変多忙の中、また足元の悪い中、出席いただき誠にありがとうございます。
　今回５回目の検討委員会では、具体的な建設候補地について提案させていただき、議論いただければと考えているが、先般一部マスコミで、建設候補地について報道があった。私どもの情報管理の不徹底ということで、この場を借りてお詫びを申し上げたいと思う。
　本日は、候補地に関して、それぞれの委員のみなさまから意見いただけるようお願いする。

３．委員長あいさつ
　本日は足元の悪い中出席いただき有難うございます。
　前回の委員会から今回にかけて大きなニュースがあった。みなさまご存知かと思うが、みなさまの尽力のおかげで、本委員会で検討している総合球技場の主要な利用者と想定されているヴァンフォーレ甲府のＪ１残留が決まった。非常にうれしいニュースがあったので、そういった点でもますますこの委員会でも力を入れて、検討を進めていきたいと思う。

またもう一点感謝したいと思うのは、前回の委員会の最後に説明のあったとおり、先日県民の意見を聴く会が開かれ、非常に大勢の方に集まりいただき多くの意見をいただいた。そういった意味で県民のみなさまも非常に高い関心を持っている事を改めて感じた。意見を聴く会といった機会を用意いただいた事務局に感謝したいと思う。
本日も円滑な議論を進めたいと思うので、よろしくお願いいたします。

４．議事
議長：委員長

（１）整備候補地の比較について
議題（１）について、資料１により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

（委員）
用地取得に関して、リニア駅前に整備する場合は、駅前に駐車場 500 台と、それ以外に駐車場 1,500 台を想定するとしている。そうなるとスタジアム本体と 500 台分の駐車場の 45,000 ㎡はリニア駅南側の 105,000 ㎡部分を使用するのか。また、小瀬の南東側の第三駐車場はどのくらいの広さであるか。
パークアンドバスライドとはどういったものか。

（事務局）
リニア駅南側に 500 台、環状道路を跨いだ南側やその他のエリアとして、リニアの駅前 24ha に含まれない場所に 1,500 台としてシミュレーションしている。スタジアム本体の 30,000 ㎡には、リニア駅南側に入るという想定である。
小瀬の第三駐車場の台数は約 900 台をとめることができる広さとなっており、面積としては 35,000 ㎡となっている。
パークアンドライド駐車場は、リニア駅周辺整備において、リニア中央新幹線を使う際に、車で来てリニアに乗る方に対して用意しているエリアとして考えている。リニア駅北側の、スマートインターのある側に、利便性を考えて配置している。台数は、細かく詰めていないため提示はできない状況である。このパークアンドライドの駐車場は、スタジアム利用者の駐車場として使用するかはまだ整理しきれていない。基本的にはリニア利用者に対しての施設として現状は検討している。

（委員）
今回２箇所の案をいただいているが、10 箇所の候補地から２箇所に絞ったという説明であったが、その他８箇所の評点、どのように絞ったかのデータに関しては示してもらえるのか。それとも、２箇所を前提に議論するのか。

（事務局）
事務局での検討プロセスとしては、10 箇所をピックアップした上で検討を行っている。その中で県有地の活用の面が、用地取得費用を抑える意味では影響が大きく、県有地が活用できる場所の評価が高くなり、総合的に評価して、この２箇所となった。具体的なその他候補地の場所を委員会の場で示すことは、様々な影響が考えられるため控えたい。その他の候補地のうち３箇所ほどは県有地を含む候補地もあったが、現状 10 年、20 年といった期間で貸付けている等の状況を考慮して除外している。そういった整理の中で２箇所まで絞り込んでいる。その上で２箇所に対しての議論をいた

だきたいと考えている。

（委員）
　10 箇所の候補地に対して、具体的な評価の説明があるのかと考えていた。

（委員長）
　必ずしも２箇所のみとは捉えてはいないが、10 箇所から２箇所への絞込み過程がもう少し説明いただけないと、議論が難しい。前回の委員会では、もう少し多くの候補地が出てくるイメージで想定していたため、絞込みの過程をもう少し具体的に説明いただきたい。

（事務局）
　10 箇所からの絞込みとしては、まず活用できる県有地が全く無いということで、２箇所を除外した。次に県有地はあるが、貸付中であるため２箇所を除外した。さらにもう一箇所については県有地ではあるが、既に県の施設があり、その施設に移転予定がないため除外とした。それから公有地として市町村の土地が候補地としてまとまった土地があったが、その中には住宅が点在しており、ひとまとめで 30,000 ㎡の取得が困難であったため除外とした。リニア南側に関して、駅から離れた箇所についても２箇所ほどピックアップして検討したが、こちらも住宅地がある等の状況で、まとまって用地を確保することができないため除外し、２箇所の候補地への結論に至った。

（委員長）
　現況は、リニア駅前や小瀬スポーツ公園周辺についても市街化調整区域、農振用地内であるため、そこは用途変更すると認識している。また、一部は用地の購入が必要であると考えられるが、他の候補地に関してはどのように考えたか説明いただきたい。

（事務局）
　リニア駅前であると、リニア駅周辺整備の計画において、県としては周辺の用地を取得予定として進めている。その他で 30,000 ㎡確保するとなると、さらに用地取得が必要となるが、リニア駅周辺整備のフレームの中で考えた場合は、用地取得費がかさまないという考えとしている。小瀬周辺に関しては、既存の第三駐車場といった、まとまった広い土地もあり、他の場所よりも用地取得といった面でも優位性が高いと評価している。

（委員長）
　用地取得の可能性と、用地取得の費用という面から 10 箇所のうち２箇所が残っているという理解でよいか。

（事務局）
　それ以外にも、立地適性や周辺環境への影響、集客性や情報発信性といったものも含めて、総合的に評価して２箇所とした。

（委員）
　小瀬南側に関して、第三駐車場をスタジアム本体に使用する際は、現在の駐車場分の用地は取得する必要があるということか。

（事務局）

理解の通りである。本体分の 30,000 ㎡は必要と考えている。

（委員）
自身でも地図上で候補地に関して見ている。いくつか選定候補があって、比較判断できる資料が出るかと思っていた。この会議の場は、県民一人としての立場ではなく、選ばれた見識者としての立場の意見を求められているので、判断すべき資料、材料がないと意見形成ができない。示された資料の中で議論するということではあるが、10箇所の比較資料があれば、そちらも示してもらい協議できればと思った。

（委員）
説明された中で、県としては用地の取得条件が評価に対して大きいのだと理解している。整備時期を考えた際には、そろそろ場所を固めていってもいいのではないかと考える。

（委員）
本日Ｊリーグのスタジアム専門の委員が雪で欠席であり、意見をメールでいただいているので、先にそちらを示す。「立地比較は、リニア駅の近くを推す。県内各地とリニア駅を結ぶ公共バスの利用が考えられること、車でスタジアムに行き車で帰る小瀬のようなアクセスでは経済効果はゼロであること、なによりもリニア駅一帯が見たこともない甲府の新しいシンボルエリアに仕立てることが可能になることが理由」

もう一つ委員が配布した資料があるが、こちらを簡単に説明する。スポーツ庁の公表した改革指針は、今年６月に閣議決定された日本再興戦略 2016 に新たな有望成長市場の創出の一つとして、スポーツの成長産業化が位置づけられ、これを受けてスタジアムアリーナ官民連携協議会が立ち上がり、その協議会が作成したものである。これを見ると、「スタジアムはチームのシンボルとなるとともに、集客施設として新たな産業集積の創出につながる。飲食宿泊観光等を巻き込んで、地域活性化の起爆剤になる」と示されている。まちづくりとしてリニアの周辺に整備することが、まさに国の指針と合致しているということで、モデルプランとしてもらえるような働きかけを県もできるのではないかと考えられる。この点については委員も言っていた。

私としては、前回の委員会でも発言したが、絶対にリニア駅に近いところに整備することを推薦したい。先ほどからでているが用地を新たに取得する必要性がないことも財政負担の軽減になる。それ以外にも、観光交流機能との一体化の意味でも財政負担の軽減になるのではないか。県から出されたリニアの中間素案を読むと、観光交流施設を作る、産業振興施設を作る等が記載されている。具体的に何を作るのかとなると、県産品のショッピングセンター、レストラン、カフェ、イベントホール、貸会議室、情報発信のための施設等となっている。これらのものを独立してリニアの駅の近くに作るよりも、スタジアムと一体化して、場合によってはスタジアムの中に作ることで、より経費の削減にもつながる。

そしてなんと言っても発信性について。山梨県ならではの特色ある施設として内外への情報発信を考えるのであれば、小瀬の南側に作ってしまえば普通のスタジアムになってしまうことも考えられる。リニア駅の近くに作ることによって、山梨県ならではのスタジアムが実現すると考える。

（委員）
この委員会内でスタジアム整備地をどちらかから決定するのか。

特色のあるスタジアムとしては、リニア駅前が一番であると思う。様々な意見を持

っている方もいるかと思うため、どちらが良いかまでを判断することは難しい。

（委員）
　委員の気持ちが、正直ではないかと思う。12 月の委員会を経て報告となるため、今回が５回目の委員会となっているが、議論が本当に尽くされているという点が疑問である。あまり性急にこの委員会で結論を出す必要性があるのか。最終的にこの委員会で候補地を結論付けるかはわからないが、５回だけで決めるのは危険性があるのではないかとも考えている。なぜかというと本日の資料にもあるが、一般的に考えるとリニア駅周辺、小瀬周辺ということになるのは理解できるが、そういった中で双方のメリットが出ており、それぞれ納得できる部分はあるので、この５回の委員会の中で一箇所に結論付けることは出来ないのではないか。
　例えば、交通に課題があったとすると、解決していきながら検討していかねばならない。また関係者との協議等も細かく行う必要があると考えている。そもそもスタジアムなのか、屋根ありのアリーナなのかなど、総合球技場のイメージも我々検討委員の中で統一されていない気もする。大規模なイベントが本当に出来るのかどうか、文化的な催しが出来るのかどうか、コンサートがたくさん出来るのかどうか、芝を考慮してもそれらは可能なのかどうか、球技場自体のイメージを共有認識した上でないと、場所によっても機能に違いが出てくるであろうし、共通認識が出来ていないのではないかと考えている。委員からも、小瀬だと単なる球技場になってしまうという意見があるが、逆に言うとリニア周辺だとコンサートや文化的なイベントが年間多くの回数出来るのかどうかも検討する必要があると考える。
　まず、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールが基本的な用途としてある。例えばサッカーでいうと、ヴァンフォーレ甲府にとって使いやすい機能は何であるのか、付加すべき機能は何であるか、サブ球技場が必要なのかどうかなど、そういった点も含めて候補地や面積はどちらが適しているかということもあると思う。
　この委員会で結論付けるべきではなく、政治的な動きの中で県議会の意向なども踏まえ、もう少しメリットや課題を出しながら検討すべきであり、12 月の委員会で決めてしまうのは、危険性があるのではないかと考えている。結論としては両論を併記して、この委員会で両候補地のメリットと課題を含めたものを整理して報告することが良いのではないか。

（委員長）
　候補地に関しては、この委員会で決めきるというよりは、意見として決めて提示するということになるため、両論併記ということも含めて意見をいただきたい。

（委員）
　用地については、リニア駅前にしても県有地の中で収まるが、周辺に 40,000 ㎡は購入しなければならない。小瀬も 30,000 ㎡から 40,000 ㎡は購入しなければならない。用地取得という点では、どちらも同じかと考えられる。
　委員からあったように、50年先100年先がどうなっているかは我々にはわからない。その中で、新しい価値を生み出すところで我々が挑戦するという結論を出すということについては、いくら議論しても正解はでないと思う。そういう点では、リニア駅ができるということから、時勢に合っているということでリニア駅前を選ぶというのが一つの決定の要素となり決めるのも正しいのではないかと考えている。

（委員）

判断する材料をできるだけ提示いただきたい。それに基づいて判断意見できれば。予算や用地に関しても、ケースごとに意見することができると考えている。

（委員）
予算をどのように考えるのか、事業手法は PFI にするの等の議論も大事であると考える。

（委員）
いずれにしても最終的には県が決めることなので、我々としては県に対して答申として示すということで良いのではないか。両論を書いて県に提示することになるのではないか。

（委員長）
他に本日欠席されている委員からの意見はないか。

（事務局）
委員から、「リニア駅周辺に整備することによる経済波及効果などから、断然リニア駅前が良いと考える。」
委員から、「前回リニア駅周辺という意見が多くだされ、リニア駅周辺前提で進んでいる印象を受けるが、都市計画との関係等についても、もう少し整理する必要があるのではないか。現時点ではリニアに結論付けてしまうのは難しく、検討委員会としては、２候補地を併記するのが良いのではないかと考えている。」

（委員）
誰が使うかという利用者に関わる話となる。どういうスタジアムを作るかで、お客さんも異なってくると考えられる。年間かなりイベントで使えるのか、芝生を考えるとイベントはあまりできない、などの点でお客さんは変わってくる。委員の意見としてリニア駅周辺であれば経済波及効果は大きいとのことであるが、リニアに乗ってお客さんが県外から総合球技場に来て見て体験し、リニアに乗ってかえってしまうという行動になってしまうと考えると、次の観光や宿泊に繋がるのかという点も考えたほうが良いのではないか。リニア駅前が悪いという意味ではないが、リニア駅前だから経済波及効果が出るということではないのではないかという気もする。いずれにしても誰が演じて誰が見るのかという視点が非常に重要ではないか。

（委員）
さきほどもあったが、最終的には県が決めるということであるので、意見として委員会ではまとめることが重要ではないかと考えられる。

（委員長）
これで候補地を決定というよりも、両候補地ついてメリットデメリットがあるということを整理し、結論としては、両論併記という形で報告として示したいと考えている。

（委員）
例えば、収容人数２万人を前提に進めているが、２万５千人のほうが良かったかどうかの議論ができていない。規模、場所に対して判断する材料がないと考えている。

（委員長）
　交通の影響評価に関しても現状の検討ではなかなか判断が難しい状況である。収容人数と建設費に関しても比較できていないことから判断が難しい状態である。最後の報告としては、もう少し具体的な検討を進められないかと考えているが、より具体的な記述を出していくことは出来ないか。

（事務局）
　県として残り８箇所を具体的に提示した場合、その土地の価値に影響する等のことを懸念している。勝手に県がピックアップして、勝手に落としたとなると、土地に影響が出ることを懸念しているため、お示しはしていないということになる。

（委員）
　現状このように土地がきれいに空いているところは他には無いのではないかと考える。リニア駅の北側にはなるが刑務所移転の話がある。リニア駅周辺が、長期的に空けてあると思う。時に乗るということも必要ではないか。ごたごたした中で整備するのではなく、すっきりした形で整備するということであれば、やはりリニア周辺が最適ではないかと考えている。

（委員長）
　効率化につながるというコメント等に関しても、具体的にどうコストが低減されるのか、またどう集客力が高まるのかなど、記載が抽象的であるため、議論するのが難しい。最終的な報告書については、このあたりをより具体的に記載できないかと考えている。報告書の部分では、踏み込んだものを書いていただきたいと考えている。

（事務局）
　次回委員会時に報告書として案を提示し、表現に関しては相談させていただき、協議いただきたいと思う。

（委員）
　いつまでに整備するかも議論いただきたい。だいたい整備に 100 億円かかるうち、30 億円が toto から補助金としてでるが、2020 年までは国立競技場の整備の関係で補助金は配られていない。その後 2021 年から再開することがわかっている。他の整備候補も出てくることが考えられるため、国立競技場が終わって最初に山梨に回してもらえるように積極的に進めていただきたい。スタジアムアリーナの国の指針でも示されている通り、早めに進めて欲しい。土地の開発許可、農地転用手続き、設計建設も時間がかかるため、それらも考慮いただきたい。

（委員長）
　土地の取得には時間を要するため、その点も考慮した候補地の絞り込みであったと考えている。補助金の取得も含め、出きるだけ早く整備出きるように進めていきたい。そういった整備方針の点も報告の中にも、明記いただきたい。
　それでは、いただいた意見を踏まえ、次回の報告案に関しては、２箇所の両論併記として進めさせていただきたい。また、より具体的な評価の記載や、整備時期に関しての記載も含め検討いただきたい。

５．閉会

司会：石寺総括課長補佐